

立沢里山

平成20年8月3日 立沢里山新聞 第12号

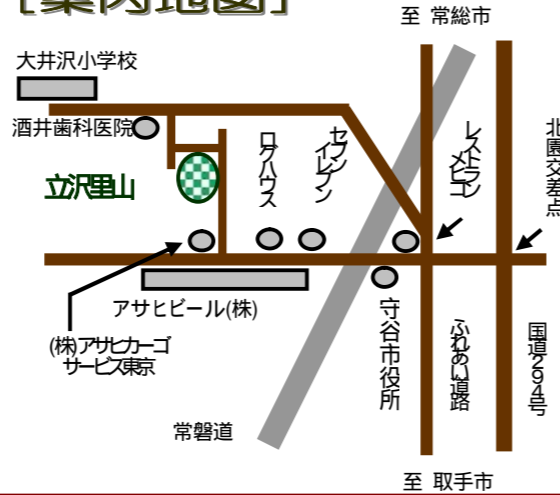
発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
問い合わせ先：事務担当
須賀（守谷市役所内 45-111 内線 222）
立沢里山ホームページ
<http://www.geocities.jp/tatuzawasatoyama/>

ボランティア募集
あなたも一緒に楽しみましょう！

～目次～

- 1 田んぼの準備、拡張
- 2 田んぼの学校開校
- 3 田んぼや水の保守管理
- 4 粗大ゴミ投棄
- 5 市内里山などのバスツアー
守谷城址、愛宕野鳥の森、茨城森林クラブ、
大野小学校学習田、立沢里山
大柏里山、柳生の森

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

denen21@hb.tp1.jp

清野



1 田んぼの準備、拡張作業

4月26日は定例会として、5月の田んぼの学校にむけて草刈、畦塗りなどの準備作業を行いました。ただ、畦や木道の破損箇所が多く、すべての作業が完了できませんでした。少なくとも子供たちの安全対策は不可欠と考え、5月11日連休中に有志で追加作業を行いました。



おかげで進入路階段の補修、木道破損箇所の修復、手すりの整備、水田内の大きな雑草除去などが進み、後は直前の17日に代掻きと畦塗りを仕上げれば何とか田植えができる見通しができました。

あわせて、道路沿いの放棄地はゴミを捨てられやすいとの意見があったことから、最低限ですが一部を水田として広げました。水路も生態系を配慮した工法として、払った柳の枝を利用して粗朶柵渠工法を試作してみました。もっとも生木を使ったので新葉が出てきてしまいましたが。

道路沿いの田んぼに絵文字も面白そうなので、準備として古代米の蒔きをしました。

5月17日は直前の作業ということで、代掻き、苗の準備を行いました。代掻き用の耕運機の調子が悪く心配しましたが、別の機械を手配いただきありがとうございました。

なんとか代掻きもすみ、畦塗り、苗の搬入もできて、最後に学校の看板用の柱も大きく新調して準備は万全です。

今年も下流側の二枚を不耕起栽培で行うことにしました。



2 田んぼの学校開校：田植え

5月19日(月)いよいよ田んぼの学校の田植えです。天気予報では雨とかなり危ない状況でしたが、皆の願いが通じたのか、薄曇りであり暑くもなく最高の日和になりました。

里山の会のスタッフが今回は10名ほど朝早くから集合し、苗を小分けして水田の中に投入、田んぼの学校の旗をあげ、植えやすいように水位を調整し、準備作業を行いました。

予定の10時前には御所が丘、松前台、大井沢小学校と順番に徒歩で到着し、恒例により小学5年生、全員で約2



百名が集合しました。先生や父兄も一緒です。

子供代表、里山会長の挨拶に続いて海老原会長から田植えの説明を行いました。ほとんどの子供たちが初体験のようでした。

今年は上流の田んぼから御所が丘、松前台、大井沢の順番で担当することになりました。

早速、それぞれ学校ごとに分かれて田植え作業の開始です。

もともとが湿田で地盤のゆるい田んぼということもあり、子供たちには田んぼに入って歩くだけでも大変、大声で感性をあげ尻餅をつく子、長靴が脱げてしまったな

どもいりましたが皆必死です。

初めは恐る恐る田んぼに入ってきた子供たちも慣れてくると元気に、楽しそうに田植えを行い、終了時はもっとやりたい、楽しかったと笑顔笑顔で一杯でした。

我々スタッフも前方で号令をかける者、縄持つ者、カメラマンと大忙しです。

子供の笑顔を見ると嬉しいものです。

最初は不安そうだった子供たちも自然との貴重な体験と葛藤？で自信を持ったのか少しだけ大人になったように見えました。

一時間あまりで三枚の田んぼの田植えは終了し、足を洗ってから勢ぞろいし子供代表の挨拶、その後、里山の会から閉講の挨拶をかねて、

- 1)自由に遊んで結構ですが、危険なこともあるので自分でよく考え注意すること
- 2)ザリガニやドジョウなど捕っていてもいいが、外から外来種を持ち込まないこと
- 3)草木や生き物、水路施設を傷つけないこと

最後に記念写真を撮るなどして元気に帰って行きました。

一般用の田んぼもあるので、スタッフで引き続き田植えを行いました。こちらはプロ農家もいるのであっという間に終了でした。子供たちが帰った田んぼは先ほどまでの喧騒が信じられないくらいの静けさにもどり、心なしか寂しそう。沢山の小さな足跡だけが語りかけてきます。



3 水管理

田植えは無事終了しましたが、夜半から大雨になりました。翌朝、心配になったので見回してみると案の定、取水口から左上側の田んぼの畦が切れて、川に漏水していました。逆に取水口右側の田んぼは水没して、一部は稲が完全に隠れてしまいました。また水深の深い箇所は稲が浮いて流れてしまいました。

急いでメール連絡して、手のあいている者で緊急処理を行いました。崩壊した畦は漏水補修、逆に

水没した箇所は畦を切って緊急排水です。

今年はどうも雨が多そうなので、上流の池の水位を30cmほど、取水口の堰水位を8cmほど低く設定し直しました。これで大雨でも田んぼは安全だと思います。

少し落ち着いてから、稲が浮いて流れた箇所の補植、畦塗り補修を行いました。



4 粗大ゴミ投棄

6月9日視察者を案内して里山へ行ったところ、里山入り口階段左側のなんと「不法投棄厳禁」の看板の真下にテレビが捨てられていました。大変残念なことです。

5 市内里山などのバスツアー

7月から約半年間、五回の計画で守谷市生涯学習課の主催する環境学習講座「自然環境に親しむ」が開催され、里山の会からも大勢参加しています。

第一回目は7月19日五木田先生の「守谷の自然環境」と題して行われ、8月2日には市のバスを貸し切って市内各地の里山などの取り組みを視察しました。

参加者は30数名、一日がかりで市内循環し、それぞれ取り組み状況の説明や現地案内がありました。これ程多彩に多くの活動が行われていることに感心し、改めて守谷市にとって里山の価値の大きさを再認識しました。ポイントのみ紹介します。

1) 守谷城趾公園：ベルデ

ベルデは18年と守谷では最も長い活動歴を持っており、市広報誌に「ちょっと緑見つけた」の連載で知られています。守谷城趾周辺の草刈り等の管理、説明看板設置などに取り組んできました。女性ばかりの少ないMVPで草刈りなどでの管理作業や野草の盗掘などに苦労しているとの説明

2) 野鳥の森散策路：守谷観光協会、エコミュージアムをつくる会

守谷城趾や守谷沼に隣接し、守谷では最もまとまった緑地を形成しています。観光協会やエコミュージアムをつくる会が中心となり、野鳥の森少年団(愛宕中学校生徒会)とも連携して、散策路や看板の整備・管理などがかなり大がかりな取り組みです。



保全地域指定など開発からどう守っていくかが課題。
3) 赤法花、いばらき森林クラブ 守谷フィールド 森林ボランティアグループで守谷市赤法花の屋敷林をフィールドに間伐・枝打ち等の森林管理、炭焼き、とんぼ池、古代米づくり等を行っています。守谷市外から多くの参加者があります。

来春には森林ボランティアの研修やツリーハウス製作の計画もあるとのことでした。

4) 大野小学校学習田

野木崎の大野小学校協力の会が中心となり、初巻きから草むしり、収穫までの稲作体験を実施しています。春の「大野を歩く会」の際にはレンゲ畑であった田んぼですが、レンゲの効果があり、周りの田んぼより窒素が多く、稲の成長が早いようで色も違います。近くには蓮の花が満開でした。



5) 立沢里山

小川の合流点の木道で里山活動の経緯や取り組み状況、植物などについて、会員が手分けして説明しました。(皆が説明役で写真無し)

暑い一日だったので、上総堀の井戸から冷たい地下水をポンプアップして、暫しの涼しさを楽しんでもらいました。

6) 大柏里山

下ヶ戸団地の住民が中心となり、立沢と同じくゴミ拾い草刈りに始まり、ヤマユリの育成、ホタル、樹木の名札付けなど多彩に取り組んでいます。

7月20日には下ヶ戸ホテル祭りを開催しました。少ない人数でかなり広いエリアの草刈りなどを行っていました。

7) 柳生の森

平成9年から自然調査会昆虫部会のメンバーが継続して雑木林活動を行っています。雑木林の地主(柳生さん)さんの理解を得て、雑木林の管理や観察会を実施しており、専門的な取り組みを行っています。山野草もかなりのレベルで残されているそうです。ただ見せるだけや、名前だけの説明はしない、里山の復元が基本方針。範囲が広く草刈りなども手が回らないのが現状とのこと

今回のバスツアーでは五木田先生も参加して要所で説明していただいたほか、受講者の中にそれぞれの活動団体の皆さんがいてお互いに説明や交流が図られました。

